

課題解決に向けた施策

学習に関する情報の入手しやすくする	3 SNSとコミュニケーション	SNSと新しいコミュニケーションの問題もこの生涯学習の中で取り組んでいかなければならない問題だと思う。
	25 年配の方の意識	すでに参加されている方は、新規で参加される人をもっとウェルカムな状態で迎えてあげてほしいと思う。まだまだ昔の意識で高齢の方がおられるので、意識が変わりその辺が広がれば良いと思う。

学習相談や問い合わせ	19 楽しみを探す（不足）	「何かしたいが、何かないか」と言われる人があるが、その際に提供する情報が少ない。主体的に学習活動をするという意識の醸成
	36 心	子どもについて言えば、悩みを打ち明けられる環境が必要である。

利用しやすい学びの場の提供	2 オンラインと対面	オンライン会議と対面会議について、それぞれにふさわしいやり方で問題を解決していくことが大事になる。
	7 シニア学習	シニアの学習について、少し知的な面での学習の機会やチャンスを提供の必要がある。
	11 地域に生かせる美術館づくり	岡之山美術館やドゥジアムのような施設は、地域の人を育てることを考える必要があるのでは。
	13 文化施設の有効な活用	生涯学習を考える上で文化施設の有効活用を考えていくことは重要である。
	22 一人が複数している	一人の方が複数活躍されていて。結局、底辺があまり広がっていない
	22 底辺少ない	
	22 活動者が少ない	
	23 障害者の希望	障害者の生涯学習は忘れてはいけないことであり、障害者のニーズを掴まなければならない。
	26 みらいえ遠い	みらいえなど利用したい施設までが遠いと感じられている人がいる。
27 学びの場が少なくなるのではないか	人の活力がないということは、学びの場がなくなることに繋がるのではないか。	
	人生100年時代の生涯学習の視点	高齢者社会に組み入れる。高齢者の参画、定年後の学習提供（アンケートより）

学びの場の活用	9 有効活用	施設や人の有効活用をする。
	9 コラボ	
	13 文化施設の有効な活用	生涯学習を考える上で文化施設の有効活用を考えていくことは重要である。
	31 市に集客できる場所	集客できる場所は、活性化や学びの場につながる。

学習環境の充実	19 楽しみを探す（不足）	「何かしたいが、何かないか」と言われる人があるが、その際に提供する情報が少ない。主体的に学習活動をするという意識の醸成
	29 学びの選択肢	人口が減などで、本人の努力ではどうにもならないところで選択肢が減っている。
	33 タスキ	歩く人を増やすために安全タスキの配布するなど、学習する動機付けが必要なのではないか。
	34 外灯	歩く人を増やすために外灯を設置するなど、学習する動機付けが必要なのではないか。
	35 集いの場	活性化や学び合えるように集える場をつくる。
	39 各小中学校の図書館の充実と活用	図書室を充実させ、子どもたちと地域の人たちが関わることに活用すれば学びの場になるのではないか。情報技術を生かして地域格差が生まれなくなればと思う。

生涯学習推進体制の充実	45 組織の先細り	組織を構成する人が循環せず先細りになっている

学びの機会の提供	5: 郷土の歴史と伝承	西脇市の郷土の歴史及び伝承の問題とそのことについての大学としての貢献のしかた。
	17: 家庭教育	家庭教育が大切であるができていく家庭もある。
	20: 幼児期から	生涯学習という考え方の中では、幼児期からの学習が必要であると思う。
	23: 障害者の希望	障害者の生涯学習は忘れてはいけないことであり、障害者のニーズを掴まなければならない。
	27: 学びの場が少なくなるのではないか	人口が減少して、人の活力がなくなることは学びの場の減少につながる。
	28: 子供たちの将来の具現化	子どもたちが将来を考えるにあたって、具体的なビジョンを提示することはやる気や学んでいくという気持ちにつながる。
	37: 文化都市	市民はもとより中学生・高校生がクラシックなど本物に触れる機会をつくることができればと思う。

市民ニーズに応じた参加しやすい学びの提供	8: 生涯学習とは	高齢者大学を例に挙げると、時代が変り参加する人の学歴や求めている内容が変化しているのならば、内容も変えていく必要がある。
	23: 障害者の希望	障害者の生涯学習は忘れてはいけないことであり、障害者のニーズを掴まなければならない。
	48: 原点回帰	最終的には、生活の原点に戻って考えるといったことが大事になってくるのではないか

学習を支える人材の発掘と育成	6: 健康寿命	生涯学習を行う上で、健康寿命がポイントになる。
	10: 高齢者の方の力を生かせる場	退職してから自身のキャリアを生かせる場があれば考える。
	21: 趣味⇒指導	自分の趣味を地域に還元したり、指導に向けるような仕組みが必要。
	22: 一人が複数している	一人の方が複数活躍されていて。結局、底辺があまり広がっていない
	22: 底辺少ない	
	22: 活動者が少ない	
	24: 支え手不足	障害者の学習にとっては、支え手の不足が課題である。
	38: 西脇市から出ない	地域のために頑張れる人が増えることが大切である。
	40: 若者の郷土への思い	子どもたちへ地域医療の取組など誇れる郷土についての学習を行い、伝えていくことを継続する必要がある。
	41: 若者の人口流出	都市部にも夢はあるが、西脇から発信する力で人口流出に対抗できるのではないか。
	46: 共生支え合う力	学校としては、子どもたちが、違いを認め、支えあうという共生の意識を持つことが大事だと考えている。
	47: 西脇市の誇れるもの	市の誇れるものは何か。みんなが言えるようなものは何でしょうか。

様々な場面での学習の実施	16: 防災	防災関係の問題は、地域の間人間関係の問題であり自治会のあり方も含めて考える必要がある。
	19: 楽しみを探す（不足）	楽しみを探す仕組みを持っていないところが課題だと思う。
	20: 幼児期から	生涯学習という考え方の中では、幼児期からの学習が必要であると思う。
	23: 障害者の希望	障害者の生涯学習は忘れてはいけないことであり、障害者のニーズを掴まなければならない。
	27: 学びの場が少なくなるのではないか	人口が減少して、人の活力がなくなることは学びの場の減少につながる。
	43: コロナ収束後見直し	コロナ収束後一局集中の日本が地方から様々なことができる時代になるかもしれない。

学校・家庭・地域の連携	0: 大学と西脇市	大学の知的資源を西脇市の課題の解決に向けてどのように還元できるか。
	1: コミュニティと学校	コミュニティと学校がどのようにつながっているのか。
	3: SNSとコミュニケーション	SNSと新しいコミュニケーションについて生涯学習の中で取り組む課題である。
	9: 有効活用	施設や人の有効活用をする
	9: コラボ	
	10: 高齢者の方の力を生かせる場	退職してから自身のキャリアを生かせる場があれば考える。
	12: 地域で共に学び合える老人会	老人会などの組織に入ることでお互いに学び合えるようになればいいと思う。
	14: 団体間の連携が少ない	市では様々な団体があるが連携がない。団体間の横の連携をしながら施設の有効利用はできないか。
	15: 自治会の在り方	自治会内でも横のつながりが無い。自治会で人が集える場所をつくり次の世代へ渡していなければならない。
	15: 地域の人間関係	
	17: 家庭教育	家庭教育が大切であるができにくい家庭もある。
	18: PTCA	家庭教育を支える地域の力が必要になる。
	20: 幼児期から	生涯学習という考え方の中では、幼児期からの学習が必要であると思う
	30: 中高連携	イメージが具体化され、選択肢が広がることにより学び続けたいという意欲持てる
	32: 子どもたちの安全な生活	助けてくれる人や環境があることで安心して西脇に住むことができ、生涯学習を進めることにつながる。
	42: チーム学校機能拡大	学校が機能拡大をして地域活性化の核としての働きをするという考え方もできる。
	44: 家庭のつながり	子どもたちにもっと自分たちの夢や色々なものを持ってもらうためにも地域の力が必要です。学校としてもできる限り地域つながることが大事だと考えている。
	44: 地域のつながり	
44: 組織のつながり		
44: 地域の教育力		
46: 共生支え合う力	学校としては、子どもたちが、違いを認め、支えあうという共生の意識を持つことが大事だと考えている。	

NPOや地域活動・ボランティア活動の支援	9: 有効活用	施設や人の有効活用をする。
	9: コラボ	
	19: 楽しみを探す（不足）	楽しみを探す仕組みを持っていないところが課題だと思います。
	45: 組織の先細り	組織を構成する人が循環せず先細りになっている。

学習成果の評価	具体的事例策の提示	生涯学習の啓発、成功事例のPR（アンケートより）

学習成果の活用	具体的方策の提示	生涯学習の啓発（アンケートより）
	具体的事例策の提示	生涯学習の啓発、成功事例のPR（アンケートより）